



発行所
社団法人 国民文化研究会
(九州←→東京←→全国)
東京都渋谷区東1-13-1-402
振替 00170-1-60507
電話 03-5468-6230
FAX 03-5468-1470
月刊「国民同胞」編集部
毎月一回10日発行
購読料 年間2000円

一も二も無く伝統に習へ!

『皇室典範』有識者会議への大いなる懸念、
憂慮すべき「力士しこ名の濫れ」

山内 健生

「皇室典範に関する有識者会議」(首相の私的諮問機関、十人で構成)の初会合が一月二十五日に開かれた。座長の吉川弘之元東大総長が記者会見で

かを考慮しなければならない」「歴史を作るのはわれわれでもあり、変えてならないもの、変えるべきものを見極めていきたい(二十六日付産経)」
「いと容易く……変えてはならないもの、変えるべきものを見極めていきたい」などと語つてゐる。
この会議は「皇位継承を安定的に維持する方策を考へる」ところにある。事柄の性質上、「一も二も無く、一から十まで、歴史的経緯と伝統に学ぶべきであつて、一般論の入る余地はない(乞ふ!六頁掲載の資料)ご精読」。産経紙によれば、吉川座長の専門は工学。十人のうち皇室専門家といへるのは笹山晴生東大名誉教授と園

前略

大相撲の隆盛、実に喜ばしく存じます。
しかしひとつ、ひっかかりますのは力士の「しこ名」のことです。
毎回弓取り式の力士の名「皇牙」。日本人にとって大切な神聖な「皇」字に、野獸的鬪争心むき出しの「牙」字を結び、調和せず、不快極まりなく、その名を見るたびに激しい憤りを覚えます。
皇室とゆかり深い伝統の國技のため、何としてもこの不快な「しこ名」を再考、いただきたい、切に切に切に切にお願ひ申し上げます。
人気絶頂の花型力士「魁皇」の名も、皇室の神聖感を潰し、よろしくと存じます。この他にも、「皇」字の力士名「三、併せて御検討願ひたく存じます。
「皇」字濫用を慎むのは日本古来の伝統でございます。何とぞ何とぞ御検討願ひしく存じます。

古来の「神」「天皇」に冠する常用句「かけまくも畏き」は「言葉にかけて申すのも恐れ多い」の意で、「天皇」と申上げる

日本相撲協会 御中

廣瀬 誠 八十三歳
元富山県立図書館長
元富山女子短期大学教授

平成十七年一月十五日

草々

ことすら恐れ憚り、例へば「天皇杯」と称せず、「天盃」「恩賜杯」と称して来たのが、日本古来の伝統的心情でございます。
中古以来、天皇をミカドと申上げたのも、「御所の御門」の意で、あからさまに「天皇」と申上げるのを恐れ憚つたためと存じます。
まして「皇牙」「魁皇」は日本人古来の美しい心情を泥靴で踏みこじるもの。
平将門の「新皇」、オウム眞理教の「法皇」など、「皇」字僭称者は常に叛逆者でございます。
貴相撲協会におかれて、この点慎重に御検討下さいますやう切に切にお願ひ申上げる次第でございます。
末筆ながら貴相撲協会の益々の御隆盛を祈念申し上げます。

部逸夫元最高裁判事ぐらゐといふ。広い視点は大切だが、何にもまして伝統に習ひ学ぶといふのが根本とならなければならない。会議に流行の「女性学の権威」が入つてゐるのも、気がかりだ。人選は大丈夫なのか。
左上に掲げたものは「しこ名」の濫れを憂慮される廣瀬誠先生が日本相撲協会に宛た書状である。
伝統の何たるかを見失つては大相撲は単なる大男の体力比べに墮してしまふ。土俵祭り・塩撒き・仕切り・鬻・四隅の房……を支へるものは「伝統の形」を重んじる慎みの心である。裸体の大男のぶつかり合ひの背後に、憤みを感じるから力士は神々しいのである。プロレスラーとは根源が違ふ。「しこ名」は広く茶の間にも入つてくる。その濫れの放置は徐々に国民精神を蝕んで行くだろう。先生の憂憤に強く深く共感する。
大相撲の健全なる発展のために、相撲協会が適正な指導力を速やかに發揮されることを切望する者である。
有識者会議の何人の方が責務の重さに慄然たるものを感じてをられるのか。相撲協会の方々はどうなのか。
(拓殖大学日本文化研究所客員教授)